

十周年記念

商和会のあゆみ

五日市町商和会





十週年に際して

挨拶



会長 小川善右衛門

昭和二十六年五日市町商和会が再発足してから満十週ンを迎えましたことは皆様と共に御同慶の至りに堪えません。

この十年間を顧ますといろ／＼と新しい計画を樹て、実施し幾多の困難を乗り越えて漸次発展して来たのであります。

即ち、売出しは申すに及ばず街路灯、ネオン看板の設置、納涼の夕、五日市銀座の独立、部制の確立、黄

色い旗の会への加入、勤続従業員の表彰、運動会の実施、定休日の制定、集団求人募集等々。

此の発展は勿論会員諸君の絶大なる御協力と御支援の賜であると共に役員諸君の一致団結した献身的な御努力にほかならないと感謝するものであります。

尚その上に消費者の方々の一方ならない御支援も大なるものがあることゝ存じ併せて感謝申上げる次第であります。

ソ連は今や、人間の宇宙飛行に成功している時代になつてきて益々社会の進歩は日に日に止まる処を知らないであります。

終戦後に於けるテレビの発展普及は目覚しく之が商業界に与える影響は甚大で根本的に経営方針を一大変革させたのであります。

既に都会の営業も田舎の営業も非常に接近してきていることは否めない事実だと思ひます。

商和会の組織も満十週年を迎えた今日更に一層合理

化して会員皆様の御意見と消費者の方々の声も伺って
施策を遂行して行く所存で居ります。

然し乍ら役員の皆様も夫々商売して居るのですから会
の仕事ばかりと云うわけにもまいりませんが、多忙な
時間をさいて一層よい運営をしてゆく考えで居ります
五日市線も電化されたし観光客に対するサービスは
各方面と共に一層注意してゆかねばならないと存じま
す。

特に土産品の準備、絵ハガキの作成、湯茶の設備等。

尚従来懸案の商和会館の建設、街路灯の新設も此の
機会に実現したく、それと共に商和会は打つて一丸と
なつて「土地のものは土地で」のスローガンを掲げて
一大購買運動を起して行かねばならないと信ずるもの
であります。

殊に最近バス、自家用車の発達により都心部との交
流も頻繁になり都心の商品も田舎の商品も同一化され
て来ましたので益々商品の嚴撰と価格の低廉を期さね

表彰を受けたのであつた。

昭和十三年綿製品の配給統制が確立されたので早く
も西多摩南部地区に秋川筋織物雑貨小売商業組合を設
立、事務所を五日市町商業組合内に置いた。続いて昭
和十四年以降西多摩南部自動車運輸商業組合、西多摩
南部生活必需品小売商業組合、西多摩南部燃料小売商
業組合、西多摩南部商業報国会等を設立、設置して西
多摩南部小売業界に貢献したのである。

終戦後漸次物資の統制も外れ各地で又連合売出が行
はれて来たので昭和二十四年の歳末から町の小売業者
で連合売出を行い、昭和二十五年も同じ姿で続行し
た。昭和二十六年に至つて名称等を審議した結果五日
市町商和会とする事になり会則も造り役員も定めた。

会長に小川善右衛門、副会長に栗原浪吉、同、岩田
金之助、常務理事、原欣哉、(和泉屋) 理事に近藤栄、
乙戸精一、小峰森太郎、鈴木定一、笹川栄治、前沢武

ばなりません。

要するに満十週年迎えましたので会員の皆様と共に
尚一致団結して五日市町の商業発展に寄与したく御願
申上げる次第であります。

次郎、倉田八三郎、監事に小峰利三郎、鈴木鶴吉、

役員は毎年改選することゝした。
売出しも年数回行うことゝした。

昭和二十六年には街路灯の建設、昭和二十七年には納
涼の夕を行い成果を納めた。昭和二十八年春仲町の会
員は殆んど脱退して五日市銀座を組織した。昭和二十
八年の六月中元資金の斡旋を行つてから八月から五日
市町農協に依頼して日掛金融を開始した。

昭和三十年組織を改善して部制を布き内部の強化と
合理的運営を図つた。

会長小川善右衛門、副会長、近藤栄、総務部長、原
欣哉、事業部長、乙戸精一、金融部長、鈴木定一、理
事には笹川栄治、小峰利三郎、岡崎芳雄、小峰森太郎
監事に、小室勘十郎、野崎実三郎、任期は二年とした。
昭和三十三年八月「黄色い旗の会」全国商店振興会
に加入し婦人部と共同して千駄ヶ谷体育館の東日本民
謡コンクール大会で才二位の栄冠を獲得し、翌三十四

年八月には浅草台東会館のコンクール大会では才一位の栄冠を獲得した。

昨三十五年八月は振興会のコンクールが中止となつたので三多摩支部の主催で五日市町民集會場で民謡コンクール大会を開催した。

漸次商店経営が近代化すると共に商和会の部制も改革して対応するようになった。

会長 小川善右衛門

副会長 近藤 栄

理事

総務部 ○鈴木 定一 松本 将暉 野崎実三郎

事業部 ○乙戸 精一 岡崎 芳雄 岩田 順一

小室勘十郎 橋本 昭夫

金融部 ○笹川 栄治 市倉 常吉

厚生部 ○小峰利三郎 小峰森太郎 玉の井広義

監事 小室勘十郎 野崎実三郎

○印は部長

尚昭和三十三年には従業員部を組織、後に昭和三十四年に厚生部と変更して従業員を把握、指導し福利施設を着々行つた。

昭和三十三年三月から定休日を毎月二十二日と定めた。更に昭和三十五年十月からは八日、二十二日と月二回とすることゝなつた。

而して、昭和三十三年十一月才一回勤続従業員の表彰を行い、三十四年二月にはゼミナール、三月には社会科見学の事業を行つた。之と併行して昭和三十四年に野球部も組織して体育方面にも歩を進めた。三十四年十一月には才二回勤続従業員表彰と同日に才一回大運動会を行つた。三十五年二月ゼミナール、三月社会科見学。昭和三十五年十一月に才三回勤続従業員表彰式才二回運動会。昭和三十六年二月ゼミナール。三月社会科見学(三浦三崎)

昭和三十六年三月末を以つて全国商店振興会から脱退して商和会の中にサービスクを設置して運営した

以上のような経過を辿り、現在会員八十一店舗、益々団結を固くして会員諸君の健康と商和会の発展を祈りつゝ筆を置く

昭和三十六年四月

花屋呉服店主 小川善右衛門 記

会員旅行記

参加人員

- 一、昭和二十九年五月 伊豆大島 伊東 34名
- 二、昭和三十年六月 千葉県木更津海岸簗立 42名
- 三、昭和三十一年八月 茨城県筑波山大洗海岸那珂河魚釣 25名
- 四、昭和三十二年七月 静岡県伊東温泉 魚釣 26名
- 五、昭和三十三年五月 栃木県日光大祭見学 38名
- 六、昭和三十四年は延期
- 七、昭和三十五年五月 静岡県長岡あやめ祭 29名



故 松本 寅太郎

五日市町商業組合常務理事



故 石川 虎一郎

五日市町商業組合理事長



故 沼 晋太郎

商和会大正十一年創立役員
小川善右衛門 松本伴次郎
と共に代表役員



故 松本 伴次郎

商和会大正十一年創立役員
小川善右衛門 沼晋太郎と
共に代表役員



鈴木 定一

昭和二十六年創立以来役員
〃 三十二年金融部長
〃 三十四年総務部長



近 藤 栄

昭和二十八年に理事就任
〃 三十二年副会長就任



小川善右衛門

商和会大正十一年代表役員
五日市町商業組合常務理事
昭和二十六年五日市町商和
会創立以来会長



故 渡辺 繁蔵

大正十一年商和会創立より
売出景品場の主任
景品場のおちさんでおなじ
み深い



松本 将暉

昭和三十五年役員就任

(以上現役員)



橋本 昭夫

昭和三十五年役員就任



野崎 実三郎

昭和三十年役員就任



玉ノ井 広義

昭和三十三年役員就任



岡崎 芳雄

昭和三十年役員就任



小峰 利三郎

昭和二十六年創立当時役員
中断後昭和三十四年再役員
昭和三十四年厚生部長



笹川 栄治

昭和二十六年以来役員
〳 三十四年金融部長



乙戸 精一

昭和二十六年創立以来役員
〳 三十二年事業部長



松本 とみ

昭和三十三年以来婦人部の
為尽瘁する



原 欣哉

昭和二十六年常務理事とし
て就任
昭和三十二年総務部長就任
〳 三十四年役員辞任



岩田 金之助

昭和二十六年役員就任
〳 二十八年副会長就任
〳 三十二年役員辞任



栗原 浪吉

昭和二十六年副会長就任
〳 二十八年商和会脱退



市倉 常吉

昭和二十八年役員就任



小室 勘十郎

昭和三十年役員就任



小峰 森太郎

昭和二十六年創立以来役員



岩田 順一

昭和三十三年役員就任



原島 喜助

和泉屋に勤続五十四年
商和会の為に貢献する

加藤 勝次郎

花屋呉服店に勤続五十五年
商和会の為に貢献する

鈴木 庫治

五日市町商業組合書記長と
して創立以来昭和二十年解
散迄勤続

昭和二十六年五日市町商和会が再発足以
来の役員は現役員の他左記の諸君が居たこ
とを御照会します

前 沢 武 次 郎
鈴 木 鶴 吉
岸 政 吉
倉 田 八 三 郎
福 島 武 三

(以上全部敬称略)